



To acknowledge the duty that accompanies every right"
 Affiliated with the International Association of Y's Men's Clubs

THE OSAKA CENTENNIAL

C/O OSAKA YMCA
 1-5-6 TOSABORI, NISHIKU,
 OSAKA, JAPAN

2011年6月 No.349
 Chartered July 20, 1982

主 題 Y's THEME (2010 ~ 2011)	
センテニアルクラブ会長	：『創造と協同、みんなの願いを前へ』
東京セントラルクラブ会長	：『ひとつとなって YMCAへ』
国際会長	：『明日への橋を架けよう』
アジア地域会長	：『心新たに立ち上がろう』
西日本区理事	：『飛翔たとう ワイズスプリットを胸に』
中西部部長	：『豊かに、そして拡がりのあるワイズライフを !!』

クラブ役員	Officers
会 長	： 新保 正秋
副会長	： 谷川 寛
書 記	： 石津 雅人
会 計	： 藤原 正巳
メネット会長	： 山中 ちあき
Y連絡職員	： 鍛治田 千文

Biblical Message of June

June Club Meeting

『 評価・計画 』

そればかりでなく、苦難をも誇りとします。わたしたちは知っているのです。苦難は忍耐を、忍耐は練達を、練達は希望を生むということ。希望はわたしたちを欺くことはありません。わたくしたちに、与えられた聖霊によって、神の愛がわたしたちの心に注がれているからです。
 (ローマの信徒への手紙 5章3 ~ 5節)

6月第1例会

日時：2011年6月15日(水) 18:30 ~ 20:30
 場所：ホテルグランヴィア大阪 21階

司会：石津 雅人 君

- | | |
|------------------|----------------|
| 1.開会点鐘 | 新保 正秋 会長 |
| 2.ワイズソング | 一 同 |
| 3.聖句朗読 | 大村 肇 君 |
| 4.ゲスト・ビジター紹介 | 新保 正秋 会長 |
| 5.今月の強調活動 | 新保 正秋 会長 |
| 6.晚餐 | 一 同 |
| 7.卓話「源氏物語を読む楽しみ」 | 福嶋昭治・園田学園女子大教授 |
| 8.連絡・報告・ニュース | 各メンバーから |
| 9.誕生祝い・ニコニコ献金 | 一 同 |
| 10.閉会点鐘 | 新保 正秋 会長 |

6月第2例会

日時：2011年6月22日(水) 18:30 ~ 20:30
 場所：土佐堀YMCA会館4階

6月のお誕生日

新保益代メネット(28日)

例会担当

3班：石津、岡本、隅田、谷川、松浦、三浦の各メン

バット職人の名工に学ぶ

三浦 直之

去る5月14日に土佐堀ワイズメンズクラブ60周年記念例会に出席し、トークショーでの久保田五十一(クボタ・イソカズ)さん(ミズノテクニクス・プロバットマイスター)のお話をお聞きし、感銘を受けましたのでそのときのことをご紹介します。久保田さんは、バットを作り続けて50年以上の方で、大リーガーのイチロウや松井秀樹をはじめ、数多くのプロ野球選手とかかわりながらバットを作り続けてこられました。

職人技 久保田さんは今までバットで硬式球を打ったことがありません。以前、壁を感じたときに打ってみようかと考えたこともありますが、バッティングに関してまったく素人の自分が少し打ったところで、プロの選手とは比べ物にならないので、やめたそうです。

体を鍛える 久保田さんは、毎日、山歩きと腹筋・背筋運動をそれぞれ200回実行されています。 <スーツがピシッと決まっています>

仕事について <久保田さんほどの域に達したら仕事は楽しいのではとの質問に> 仕事はやはりつらいです。タイガーウッズもゴルフはつらいと思います。

コーチングについて 大リーグのヘッドコーチの例を挙げてお話しされました。選手が自ら聞きに来るまでは、一切教えません。しかし、聞いてきたときにはこぞと自分の教えられることを全て教えます。

私も久保田さんの姿勢を見習おうと思いました。

(次回は谷川寛さんです。)

【クラブ統計 Statistics】

2011年5月	種 別	第1例会	第2例会	BFポイント		ニコニコ献金
在籍会員 22名	メ ン	15名	12名	5月 現 金 切 手 現 金	210g 0円 8,062g 500円	5月: 16,600円
例会出席 18名	メネット	7名	1名			
うちメーキャップ 1名	ビジター	0名	0名			
出席率 81.8%	ゲ ス ト	1名	0名			
	合 計	23名	13名			
						累 計: 194,409円

5月第2例会

と き : 5月25日(水) 18:30~20:30
 と ころ : 大阪YMCA土佐堀会館406号
 出席者 : 石津、大村、岡本、鍛治田、新保、谷川、藤原、
 中村^隆、松浦、三浦、山中、山田の各メンと
 山中メネット(13名)

- 1.5月第一例会の反省
 - ・欠席が多く残念だった。松下さんの熱のこもったまじめな話に感動した。
 - ・吉野高校の厳しい現実と吉野林業の課題が見えた。
- 2.次年度司会、聖句、巻頭言の分担、例会担当班の編成
- 3.第一例会会場の検討
 - 高橋メン提案のサンルート梅田と現グランヴィアの比較の結果、地の利では現会場が好ましい。8、12月の特別例会の候補については、引き続き高橋メンにお願いしたい。
- 4.30周年記念事業
 - ・役割分担・日程 = 2012年11月17日(土)を予定。
- 5.その他
 - 西日本区大会の申し込み 現在22名
 - ワイズアジア大会 8/5~7・台湾 6/20締切
 - 来年吉弥さんの落語を、2/18か2/25で調整中。
 - クラブのリーフレットを6月第二例会で案を出す。
 - 表・コミの学生との交流会 = 8/24(水)10:00~正午。対象は3年生で33名。内容はお茶会。

(新保 正秋)

YMCAニュース

不登校無料相談会
 保護者対象に開催いたします。YMCA総合教育センタースタッフ(臨床心理士等)による個別相談を行います。

日 程 : 7月23日(土)
 * 13:00~16:00のうち30分間
 場 所 : 大阪YMCA会館

5/28会員大会が開催されました。下記のことが承認されました。

基本方針「全ての世代の人々と、互いに支え合い、「共に生きる力」を育てます」

年間聖句「希望をもって喜び、苦難を耐え忍び、たゆまず祈りなさい」(ローマ人の信徒への手紙12:12)

年間讃美歌 234番A「昔主イエスの」

YMCA国際学校「うめきた」近くへ

現在みなとYで行っています海外ビジネスマンの子ども達が通う大阪YMCAインターナショナルスクールが、8月、北区中津南小学校跡に移転します。幼稚園課程30人、小学課程70人が通っていますが、今後中学課程を再開し、将来は200人が勉強する場になる予定です。

(鍛治田 千文)



忍耐といえば辛い事と思われている。我慢する事と思われている。キリスト信者の忍耐はそんなものではない。キリスト信者の忍耐とは優に耐えるということである。すなわち神によって、希望をもって、喜びつつなお苦をも感じることなく、耐えるということである。 <内村鑑三 「一日一生」より抜粋>

聖句選/コメント: 大村 肇

(次回は、山田孝彦さんです)

5月第1例会

と き : 5月18日(水) 18:30~21:00
 と ころ : ホテル グランヴィア大阪 21階

六甲で行われたキックオフ例会の余韻が残る5月例会。ゲストを含む23人が参加し行われました。初々しい岡本剛介さんによる司会で、大学時代の友人、奈良県立吉野高校の森林科学科教諭、松下征悟さんが紹介され、「森を育てる学校」と題し、同校の取り組みと、吉野杉の特性について、興味深いお話を聞くことができました。

吉野林業地域は、年間降水量2千^{ミリ}、年平均気温14度、冬の積雪30^{センチ}以下という気候が森林の育成に適しているそうです。吉野杉は極端な密植と弱度の間伐で成長が抑制され、年輪が狭く水漏れが少ないため、樽や桶材に最適。そこで、「樽」と「桶」の材質の違いについて質問。樽は板目、桶は柾目。



松下征悟教諭

板目は年輪に沿い、柾目は交差するように切られた材で、用途により使い分けられるとのこと。植林として育つには80年かかる。演習林の間伐、下草刈り、林道作り、測量の實習、椎茸の栽培など、どれも協力なしではできないものばかり。松下さんは、人と人との大切な「絆」をこの

学科では学んでいるという言葉で締めくくりました。

また報告では、石津雅人さんが西日本区の情報委員長になったとのこと。また大畑さんと小野さんが入籍されたことなど、みんなで拍手し祝福しました。

(中村 茂高)

5月BF報告

山田(100g) 中村^隆(70g) 松浦(20g)
 新保・福永(10g) 計210g

5月 キックオフ例会

五月晴れの新緑、六甲山・YMCA研修センターで、5月14日、メン、メネット24名が集まり、キックオフ例会を開催しました。



出席者全員で集合写真

午後1時から午後4時半まで、谷川次期会長による会長方針に始まり、各々の担当から出された資料にもとづき、説明、協議が行われました。中でもワイズ運動の一端に触れ、私たちの活動の意義を学び、また厳しい財政事情や規約、30周年事業企画など幅広く、総括的に話し合いができ、とても有意義な時間をもつことができました。自然の中でこのような会合をもつことも、お互いの連帯意識がもてた気がします。その後、有志で、新保メンに連れられ、桂吉弥さんが学生時代アルバイトをしていたというピザレストランに行き、おかみさんから、「あの頃から、吉弥さんの小話を聴くのを楽しみに来る若い人たちがいっぱい来ましたよ」など「なるほど」エピソードをうかがいながら、おいしい料理とお酒に舌鼓を打ちました。
(中村茂高)



六甲山からの展望

新しいクラブができました!

2011年5月28日(土)に岩国国際観光ホテルにおいて「岩国みなみワイズメンズクラブ」の国際協会加盟認証状伝達式(チャーターナイト)が行われました。西日本区で90番目のクラブが設立されたこととなります。120名余りの列席者があり明るく楽しい雰囲気で行われました。
(石津雅人)



岩国城(左)と錦帯橋(下)



Club Activities (May ,2011)

Kick-off Meeting

On May 14, our Kick-off Meeting for the new fiscal year was held at Mt. Rokko YMCA Camp Site in Kobe. After the detailed explanation of the basic policy made by incoming president, KAN TANIKAWA, a total of 24 Y's men and Y's menettes gathered thoroughly discussed the following proposals made by respective chairperson of the committees.

1. How to hold more interesting and useful monthly meeting with less expenses.
 2. What kind of community services we should pursue and how to raise the necessary fund for them.
 3. How to hold our 30th Anniversary of the Charter of the Club in 2012.
 4. Revision of the rules and by-laws of the Club.
- Through the discussion, all attendees convinced that our club would be revitalized again in next year under the new President's slogan, "TEAM, Together Everyone Achieve More and sub slogan "Be a Sustainable Y's man!".

Club Activities (May ,2011)

On May 18, a total of 22 Y's men and Y's menettes gathered at Hotel Granvia, Osaka. The meeting was presided by Gosuke Okamoto. He introduced this month speaker, Shogo Matsushita, a forest instructor and a high school teacher of Yoshino High School who was invited to talk about his experiences at his school specializing in forestry in Yoshino, Nara prefecture. Because of hard work and less rewarding forest development business, the number of student enrollment has lately shown a drastic decline. Good news for this month is a marriage of the Ohata couple. We were successful in collecting 16,600 yen for Niko Niko fund.
kan Tanigawa



仁科保雄西日本区理事より高瀬裕彦初代会長に認証状が渡されました。



祝辞を述べられる福田良彦 岩国市長





ニコニコ・メッセージ



【Messages from the Club Members】

会員からのメッセージ

中学生のときに遠足の変わりに植林の下刈りに行った時のことを思い出しました。その当時の木は50年ほど前のことですから大きくなっていることでしょう。(石津 雅人)

松下先生の情熱あふれる話し大変興味深かった。(大村 肇)

私の友人のお話を皆様ワイズメンズでお話できてうれしく思います。遠くから来ていただいた松下君に感謝！(岡本 剛介)

松下さんの自分の役割に邁進する姿に感動しました。私も自分のできる事で社会に大きく貢献出来る様に日々がんばっていききたいと思います。(大畑 慎治)

先日のキックオフでクラブについて今までよりも理解が深められました。これからお役に立てるように努めていきます。今日の卓和で「樽」と「桶」の違いには目からうろこでした。(大畑 都子)

松下さんのお話、興味深く拝聴しました。遠くからありがとうございました。(鍛冶田 千文)

例会に出席する度に新たな発見及び知恵が入り今回も大変勉強になりました。私もボーイスカウト(小学校3年間)に入隊しまして又、幼いころの夢は宮大工になりたい！とおもってましたので大変感動いたしました。松下先生ありがとうございました。(芝田 光雄)

まじめな松下先生の話でした。身分が不安定な講師生活7年の生活は大変だったと思います。欠席が多かったので残念ですが体調不調とかご家族の心配とかで大変だなと思っています。無理をされませんように。(新保 正秋)

森と子供を育てる松下先生のお話、楽しく伺いました。森を育てるお仕事、すばらしいと思います。皆様、頑張ってください。(隅田 恵子)

吉野林業への取り組み、非常に勉強になりました。樽と桶の違い興味深かったです。(高橋 裕也)

若者も林業をしっかり支えてくれているのですね、頼もしいです。(中村 幸枝)

新緑に彩られた日々を感謝して 今日のお話も先月のお話もなかなかユニークな学校がある事を知りました。林業のいろいろと大切な事も知る事が出来ました。有難うございました。(福永 義彦・滋子)

森林についてのお話を伺ったのは初めてです。知らないジャンルにおいて若い人の育成から日本の森林改革まで考えさせられるお話でした。ありがとうございました。(松浦 孝次)

センテニアルクラブの例会でいろいろ今日の社会の問題、課題を学習できるのが楽しみです。(山田 孝彦)

松下先生の生徒さん、なんて幸せでしょう。ありがとうございました。(山中 ちあき)

吉野高校松下征悟教諭の自己紹介に始まり”森と子どもをそだてる”の卓話、興味深さ、示唆に富み、啓蒙されました。(山中 秀男)

吉野高等学校の山の中の学校は素敵で都会の中の学校とは違う良い所があるようですね。先日の六甲ではとても楽しかったです。(山村 利子)



IBC ニュース

東日本大震災にあたり、当クラブのブラザークラブである香港ポヒニアクラブより、支援の印として、10,000香港ドル(約105,000円)が「がんばれニッポンファンド」に献金された旨の連絡がありました。(藤原正巳)

Dear Fujiwara-san & Kan-san,
Thanks for sharing your Club's June newsletter. We hope our brother Y's men are well and Gambare Nippon and relief activities are gathering strength. Bauhinia YMC has committed to donate HK\$10,000 to the Gambare Nippon Fund as a token of support. To our dear Kan-san, our heartiest Congratulations for your assuming President of Osaka Centennial Club in the coming club year. Under your leadership and guided by your slogan "Team", we are confident that your Club will celebrate a proud milestone of 30 years' service next year and will generate many more sustainable achievements in the years to come.

Elsie Woo
PCP, Bauhinia YMC
PDG, Hong Kong



後記

キックオフ例会に参加し、活動歴の長い人も短い人も、今後一人ひとりがどのようにこのクラブと向き合い、どのように参加、あるいは奉仕をすればよいのかという命題を、それぞれの胸に突きつけられたように思います。

特に新しい人にとっては、ワイズ活動のことがよくわからぬまま、担当を任せられ、その戸惑いと不安があることもよくわかります。

私たちが今後も新しい人を迎え、いきいきと持続可能なクラブにしてゆくためにはどうすればよいのでしょうか。

いつも寛容なキリスト者の精神の中で、それぞれの自発性に求め、何事も無理をすることなく進まれていくことを願う一人です。

(中村 茂高)